



高崎工場正門



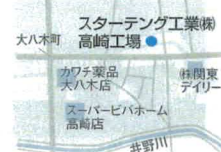
樹脂成形工場

会員企業ナウ AN ENTERPRISE NOW スターテング工業 株式会社



原田 正夫会長

～会社概要～
代表取締役社長 高橋 隆雄さん
本社：東京都杉並区桃井 4-4-4
TEL：03-3399-0141
高崎工場：高崎市大八木町 777
TEL：027-361-0278
<http://www.starting.co.jp/>



で世界トップを走る

大八木工業団地の中にスターテング工業（株）高崎工場がある。この工場は大八木工業団地が造成された当初から立地し、歴史を持っているので、工場の看板を見て「スターテング」の意味を知りたいと思っている市民が、実はたくさんいるようだ。

スターテング工業（株）は、戦後日本の産業発展とともに歩んだ部品メーカーで、世界シェアを持つ高崎のものづくり企業である。スターテングの社名の由来は、同社の創業精神と高崎の歴史文化に深く関連している。

●国際シェアを誇る部品メーカー

スターテング工業（株）は、本社を東京都杉並区に置き、大八木工業団地に国内生産拠点を置く高崎ゆかりの企業で、主力製品のリコイルスターターは、生産量、品質ともに世界トップ水準を行く。

自動車のエンジンをかける時にはセルモーターを回すが、農業用機械、草刈り機、発電機、チェーンソーなど、小さなエンジンを搭載した機器は、セルモーターの代わりに、手でロープを引っ張って始動させる装置「リコイルスターター」が取り付けられている。

●総合力を持った一貫生産

どのような製品でも、厳しい競争の中で長期にわたってトップシェアを保つのは容易なことではなく、競争相手もグローバルに広がっている。他社に負けない製品を開発する創造的な企業風土がスターテング工業に根付いており、発展につながっている。

スターテング工業（株）は、設計、試作、金型製作、加工、組み立てなど、ものづくりの一貫生産体制を持っている。

開発力、技術力に併せ、スターテングの製品は耐久性、機能性、デザイン性に優れていることも大きな強みだ。小型エンジンに関連する分野から業務展開し、リコイルスターター同様に国内シェア7割を持つ農

ので、一日の作業量としても申し分なく、価格も他社の半額ほどとなっている。

開発期間は約2年間で、一人の技術者のアイデアから生まれた製品だ。挑戦していく企業力、社員が力を発揮できる企業風土が伝わってくる。高崎発の製品として、全国の果樹農家に展開していきたいと考えている。

●社長三代が受け継ぐものづくり精神

創業者原田幹市さんは「日本中の大企業に買われてもらえる専門メーカーになりたい」と目標を掲げて事業を発展させた。二代社長で現会長の原田正夫さんは「世界の一流企業に使ってもらえる専門メーカー」をめざし、グローバル展開をはかってきた。海外へ目を開き、日本から世界へとスターテングを羽ばたかせた。

平成27年に、三代目として高橋隆雄社長が就任、正夫さんが会長となった。高橋社長は技術畑出身で、これまで設計、製品開発の責任者として会社を支えてきた会長の右腕だ。「スターテングの本当の技術力が示される」と、原田会長は語る。

町工場から世界に羽ばたく企業へと成長してきたスターテング工業（株）は、日本のものづくりを象徴する姿でもある。スターテング工業は、これからも高崎工場をものづくり拠点として発展させ、世界で信頼される製品を作り続けていく。（A）



高橋隆雄社長

エンジンスターター

林業機械の操作レバーの他、ナイロンコードカッター、建材用鋸歯、電動昇降器など高度な専門部品を生産している。農機具や産業用だけでなく、モーターボート、スノーモービル、ATV（アウトドアバギー）などに搭載され、海外での信用も厚い。

●「スターテング」は何の意味？

故郷とのつながりを社名に表すスターテング工業の創業者、原田幹市さんは旧榛名町出身で、旧中島飛行機（現SUBARU）につとめ、現在本社を置く杉並区で昭和25年に前身の中央プレス工業を設立した。昭和35年にリコイルスターターを開発し、杉並区の工場が手狭になったことから、昭和39年に大八木工業団地に高崎工場を新設した。

スターテング工業（株）は故郷の榛名町や高崎市とのつながりを大切



リコイルスターター（大型）

他社製の電動剪定ハサミは、ハサミ部分にモーターが内蔵されていて重く、価格も高かった。スターテング工業（株）のアシストくんは、ハサミとバッテリー・モーターを分離しているのが特徴。ハサミ部分は、通常の剪定ハサミと同じ重さで、ハサミを握ると電動アシスト機能が働き、握る力は半分ほどですむ。1回の充電で5千回以上使える

●高崎の果樹農家と連携した「アシストくん」

高崎ならではの新品として、剪定作業を電動アシストする「アシストくん」が平成25年に開発された。東日本屈指の果樹産地である榛名や真郷の果樹農家と連携し、農家の声が生かされた製品である。

果樹農家にとって、枝の剪定は次の収穫を左右する大切な作業だ。しかし樹木を見上げながら太い枝を切るのは重労働でもあり、一日に数千回も剪定ハサミを動かすと言われ、腰痛に悩む人もいるそう。農家の高齢化も進み、作業負担の軽減が課題となっている。

に考えている企業で、榛名神社への寄進も行っている。昭和43年に社名を変更する際、エンジンスターターの「スタート」と榛名神社の神々を先導する「天狗」にもちなみ、お客様は神様。の考えから「スターテング」と名付けた。

「スターテング」と間違えられることもあるが、英語表記では「STARTING INDUSTRY」となっている。